

新栄町駅前再開発を 新しい中心市街地活性化の起点とせよ

本市が計画するレマン跡の整備構想と新栄町駅前地区再開発準備会が提案する新栄町駅周辺地区再開発基本計画とを推進し、井筒屋跡地も有効利用することによって、新栄町駅前再開発が中心市街地活性化の起点となり、ひいては本市のまちづくりにもなるとして、次のような質問があった。

中心市街地活性化計画

問 新栄町駅前地区再開発準備会の再開発構想とレマン跡の活用とのすみ分けをどう考えているか。

答 同準備会で検討されている再開発構想では、市が検討を進めているレマン跡への（仮称）中心市街地にぎわい交流施設との整合も見据え、主に居住機能と住環境にふさわしい憩いの空間の整備、駅機能の更新、既存商業機能の再配置等が想定されている。

また、同交流施設には、青少年の学習・交流・体験活動支援、子育て支援、市民活動サポートセンター等の各種機能の導入を予定しており、子供から高齢者まで多くの市民が気軽に利用できる交流施設としており、新栄町地区における機能の相互補完と面的な広がりによる相乗効果を生み出すものと考えている。

これまでも両事業について

では、同準備会と検討・協議を行ってきたが、今後両事業の整合を図りながら諸課題の整理を行い、協議を密に行っていきたい。



井筒屋跡地

問 新栄町駅前地区再開発準備会では、権利者が再開発について熱心に検討しているが、行政としてどう評価・認識しているか。

答 市街地再開発事業の実施に際しては、市民の利便性の向上につながり、本市のまちづくりに寄与する事業であること、市民が納得できる財政負担であること、さらに費用便益等の検証を行うなど、総合的に勘案し

ていく必要がある。

これらの課題をクリアしながら、中心市街地の活性化に寄与し、市民の理解を得られる事業となるよう、構想の実現に向け、真摯に協議を進めていきたい。

食育がもたらす効果と取り組み

問 食育推進計画において、各部署で予想される食育効果を聞きたい。

答 教育委員会では、教育施策の大綱の中で、教育活動全般における取り組みを初め、学校給食における地場産品の活用、早寝早起き朝ごはん運動の推進の大きく三つの視点から取り組みを進めており、それぞれに期待される教育効果を基盤とした知育・徳育・体育を行うことにより、心身の健康の増進と豊かな人間形成に資するものと考えている。

産業経済部では、直売所での地産地消の推進によって農作物生産に対する意欲の向上が図られることや、

消費者側としては体験農業の推進によって食と農業及び自然環境などに対する理解が一層深まることなど、生産振興のみならず消費者にもよい効果をもたらすものと考えている。

保健福祉部では、同計画の中でも、健康づくり、食の安心・安全、食を通じた市民協働を中心に推進している。健康づくりの視点により食育を進めることは、生涯にわたって健康で生き生きとした生活を送ることができ、健康寿命の延伸なども図られる効果があると考えられる。また、中・長期的に見て、医療費の適正化や介護保険などの安定的な運営が図られるなどの二次的な効果もあると考える。食の安心・安全の面においても、食の選択力の向上や食中毒の予防などの効果があり、食を通じた市民協働においても、食育活動の広がりやボランティア活動の活性化などの効果があると考えている。